

第4次高梁市教育振興基本計画策定検討委員会（第2回）要旨

日 時：令和7年10月2日（木）
13:30～15:00
場 所：高梁市役所 3階大会議室1

＜出席委員＞ 12名

井勝会長、日名副会長、藤森委員、片岡委員、太田委員、森本委員、三上委員、那須委員
菅田委員、常浦委員、矢動丸委員、松本委員

＜事務局＞ 8名

小田教育長、伊丹教育次長、福原参与、藤井教育総務課長、三宅こども教育課長
亀山社会教育課長、野口スポーツ振興課長、羽井佐教育総務課長補佐

1 開会

2 会長あいさつ

本日はお忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。

教育環境においては、ITの進化に加えてAIの発展も著しく、取り組みが非常に複雑になってきていると感じています。ただし、教育に関しては、譲れない基本的な部分をしっかりと守りながらも、時代の変化に対応していく必要があり、非常に難しいかじ取りが求められているところです。

前回の委員会では、第3次計画の振り返りを行い、第4次計画の概要について、皆様からご意見をいただきました。

今回は、計画の骨子ということで、前回よりもやや詳細な資料となっております。皆様から忌憚のないご意見をいただき、より良い計画を策定していかなければと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

3 議事

（1）第4次高梁市教育振興基本計画の骨子について

＜委員意見等＞ ○：検討委員 ⇒：事務局

○ 第3次計画の課題として、担い手不足や受け皿となる体制が脆弱であること、持続可能性が低い可能性があるといった認識を持っています。その課題を解決する方向性として、基本方針2の施策7・8において、プラットフォームのようなことも検討していくことを示されたと思います。ただ、前回の話の中で、松山踊り保存団体が解散したとの説明があったように、受け皿となる拠点づくりについては、スポーツの分野に限らず、地域全体の活動を支えるような体制であることが重要ではないかと考えています。

⇒ 現段階としては、スポーツに関してのものですが、市がそういったプラットフォー

ムになり得る訳ではありませんので、本当に実現可能なのかどうかということも含めて、今後検討を進めていく必要があると考えています。

⇒ 目指す学校・地域の姿として4つの項目を掲げており、これらの項目は、今後の基本方針や施策の中にも精神としてしっかりと反映させていく必要があると考えています。その中の4つ目に「目指す学校や地域の実現を支える人材の育成」に焦点を当てています。リーダー的な存在や組織を支える人たちを育てていくことは、さまざまな施策を実現していくうえで不可欠な要素だと考えています。このことは、基本方針や施策を構成していく上で中心的な考え方として位置づけられ、施策7の「地域に根ざした生涯スポーツ環境の整備」にも、この人材育成の考え方は当然取り入れられています。今後、より具体的な施策やKPIを設定していく段階で、人材育成の内容をより詳細に組み込んでいくことになります。

○ 目指す学校・地域の姿について、2と4の項目については、いずれも人に焦点が当たっています。人材を育成することが大前提にあるのは分かりますが、人材をどのように確保し、どのように繋いでいくかを「プラットフォーム」のような仕組みで考えていく場合、この項目や基本方針ではなく、より具体的な部分に「プラットフォーム」が出てくることが、構成の順番としては疑問に感じます。まず、環境や人材を育てる組織体などがあった上で、「このような人材が育てていきます」というルートになるのが自然だと思います。例えば、「組織体制を整えていきます」や「人を育てるためのプラットフォーム的な拠点をつくっていきます」といった前提が据えられていて、その上で、「人材をこのように育てていきます」とか「この分野であればこのようない形で拠点を活用し、有機的に育成しながら、さまざまな分野を担えるような人材を育てていきます」といった流れのほうが、説得力があると思います。

○ どの部分にどのように盛り込んでいくのかは難しいと思います。基本方針の中の具体的な施策にも盛り込む必要がありますし、大きな方針の中に盛り込むとなると、具体性を持たせるのはなかなか難しいかと思いますので、どういう風に盛り込んでいくかは、事務局で考えていただければと思います。

○ 基本方針1の施策1に「グローバル人材の育成」を掲げていますが、現在のところ具体的な施策としてどういうことをイメージしているのでしょうか。

⇒ 英語力向上事業として、英検IBAという取組を進めています。これは県が実施しているものに加えて、市独自で能力別の英語学習プログラムを中学校において実施しています。また、外国人青年招致事業として、ALT(外国語指導助手)の先生を派遣しており、この事業についても引き続き実施し、英語学習の充実を図っていくこととしています。このほか、各学校においては、英語圏に限らず、他の国々との交流も行っています。

○ 基本方針2の施策1にある「郷土愛の醸成」と施策5にある「郷土学習の推進」について、それぞれの違いや整理の仕方、また学校教育との連動など、現時点での方向性やイメージがあれば教えてください。

⇒ 社会教育課では生涯学習、文化財を担当しています。現計画では、ともに「郷土愛の

醸成」という項目で取り組んでいたため、次期計画を検討していく中で表現を見直すこととしました。施策1については、生涯学習を基本に展開していくもので、今後は文化財も含めた地域のさまざまな魅力に触れる体験の機会を設けることで、郷土愛の醸成を図っていくことが主な取組となります。一方で、施策5の郷土学習の推進については、文化財の保存・活用の面が濃くなるイメージで、郷土館などを活用して子どもから大人までが多様な郷土学習に取り組む機会を提供していきます。学校との連携については、現在も市の学芸員が学校園に出向いて講座を行っていますが、実施状況などをしっかり情報発信し、郷土学習の機会を拡充していきたいと考えています。

- 基本方針1の施策3や施策4に関するのですが、施策3については、現計画では「たくましく、心やさしい子どもを育てます」ということで、情操教育や心の道徳教育の側面で、施策2で「一人一人の自立を目指した特別支援教育を推進します」を挙げています。今回の施策3の「多様な教育ニーズへの支援」という表現がありますが、多様な教育ニーズというのは、特別支援教育の分野でよく用いられる言葉なので、今回の施策3と施策4が少し混ざり合っている印象を少し受けました。

この5年間で特別支援教育もよりインクルーシブという方向性に変化を遂げているように思います。例えば、赤磐市では、小学校を統合する中で、インクルーシブな学校づくりをコンセプトに掲げていたと思います。また、新学習指導要領の論点整理の中でも、多様な子どもたちを包摂する柔軟な教育課程のあり方について述べられており、多様なニーズを持つ子どもたちに頑張らせるのではなく、そうした子どもたちを包み込むような土壤づくり・集団づくりが求められているように思います。そのため、今回の計画においても、少し未来志向的な表現を取り入れてもよいのではないかと感じました。

- ⇒ 先を見据えた表現については、今後の検討材料にします。「多様な教育ニーズへの支援」という表現については、県の教育施策の概要にも「多様な教育ニーズへの支援の充実」といった項目があり、そこには不登校や特別支援教育、地域の教育力の向上といった内容が盛り込まれています。市としても、多様な教育ニーズへの対応を重要な施策と位置づけているため、現行から特出しをする形で設定したところです。

- 基本方針1の施策6の主な取組として「部活動の地域展開」が挙げられています。現計画では、「スポーツを通じた青少年の育成を図ります」という項目がありますが、今後、部活動を地域へ展開していく方針であれば、スポーツ分野においてもその方向性を明記する必要があるのではないかと感じました。

- ⇒ 幼少期から高齢期までの各ライフステージに応じたスポーツ活動を推進していく中で、スポーツ少年団の活動や部活動の地域展開についても対応していきたいと考えているところです。

- 現計画の課題を踏まえた上で、内容に深みが増しており、一步前進した印象を受けました。

- 多様な教育ニーズへの支援については、県の計画にも示されていることから、その方針と連動するという意味でも、非常に重要であると感じました。

- 探究的な学習や地域との連携においては、人材の育成が非常に重要だと考えています。学校の教員が探究や地域連携に長けていき、専門性を高めていけるような「教員側の育成」と、地域コーディネーターのように地域と学校をつなぐ「地域側の人材育成」の両面が進んでいくことが必要です。そうした人材育成が進めば、探究的な学習や地域との連携がより一層充実していくと思います。そのためにも、こうした観点が具体的な施策の中にしっかりと盛り込まれていくことが望ましいと考えます。
- 基本方針1の施策8に「学校園の適正配置」が挙げられています。適正配置が示された当初は、地域への説明会を実施していましたが、計画の見直しに向けて、地域や保護者からの意見聴取を十分にしていただきたいと思っています。また、施策7で「異校種間の連携強化」を掲げており、園と小・中学校、高校との連携を進めていくことと認識していますが、適正配置に伴って、統廃合する学校間の連携も強化していく必要があると思っています。
- 公民館長の皆さんには、それぞれの地域への思いを持ちながら、学校教育にも関わって活動していただいている。しかし、学校園の適正配置計画が示される中で、小学校や中学校が地域からなくなっていく現状があり、そのような状況では、郷土愛や郷土学習が進めにくいという声が上がっています。学校教育については、どうしても学校の所在地を中心に進められている印象があり、地域の社会教育をどのように進めていくのか、もう少し具体的に示していただきたいと思います。
- 郷土学習については、現状は市の方から学校へ出向いてお話ししているところです。今年度末には、巨瀬小学校と中井小学校が有漢学園に再編される予定ですが、例えば有漢学園の子どもたちが中井地域や巨瀬地域へ出向いて郷土学習を行うような形をとることで、子どもたちにとっての郷土の範囲が、これまでの有漢だけでなく、中井や巨瀬にも広がっていくように進めていく必要があると感じています。
- 先日、初めて有漢学園を見学させていただきました。子どもたちはタブレット端末を活用し、熱心に学習に取り組んでいる様子が印象的でした。先生方も、学力の向上だけでなく、体力や集中力を養うことにも力を入れて指導されていると感じました。子どもたちが将来社会に出たときに自信を持って活躍できるように育成されていると思いました。
- 基本方針については、前回の委員会での意見なども踏まえて、非常に的確な表現になっていると感じました。スポーツ協会の立場として参加していますので、基本方針2にある施策8の「持続可能な施設運営の推進」の中で、選択と集中という説明があったので、また詳しく教えていただきたいと思いました。
- 基本目標が「人づくり」に留まるっていると、大きな目標になっていないのではないかと感じています。人を育てるという点は「人づくり」で説明がつきますが、環境や拠点づくりといった観点まで含めるのであれば、基本目標に「人づくり」だけでなく、「仕組みづくり」も加えてはどうかと思います。大きな目標に描かれず、目指す学校や地域の姿の中に含まれていると言われるのには、少し違和感を覚えます。また、人を育て

ることは重要だと思いますが、良い人材ほど活躍の場や求められる場がなければ、市外へと活躍の場を求めて流出してしまう可能性がありますので、人を育てればさまざまな問題が解決するとは言い切れないと思います。育った人材がつながり合い、新たな人たちとも関わっていく。そして、そうした人のつながりの中から地域のコミュニティがデザインされ、仕組みづくりや拠点づくりへと発展していく、このような流れが重要だと考えます。次期計画においては、こうした根本的な原因を解決できるような目標や方向性を示していただきたいと思います。

- 教育については、どうしても子どもに焦点が当たりがちだと思います。しかし、そうではなく、大人と子どもの学びが、学校教育と社会教育の連動によって取り組めるように、今後の計画策定の中で具体的に考えていただきたいと思っています。

また、郷土愛や郷土学習に関しても、子どもだけでなく、大人の郷土愛や郷土学習が非常に重要だと感じています。やはり、高齢者を含めた大人たちが高梁市全体のことを愛せるような状況でなければ、極論かもしれません、子どもたちも本当の意味で愛することは難しいのではないかと思うからです。そのため、すべての世代が高梁のことを愛せるような具体策を、ブレイクダウンしながら作っていただきたいと考えています。

- この地域が現在抱えている問題点がよく整理されており、非常に分かりやすく、まとまった基本方針であると感じました。文化財保護の立場から出席していますので、引き続き文化財の保護・保存に力を入れていただければと考えています。

- 目指す学校・地域の姿についてですが、内容が学校教育に偏っている印象を受けました。もし教育振興基本計画が学校教育を中心とした計画であれば、それ自体に問題はないのかもしれません、市として教育をどこに導こうとしているのかという視点から見ると、やや弱さを感じる部分があるように思います。例えば、文化財について、地域での保存活動が行われ、子どもたちも学ぶ機会を得ていますが、それらが十分に活用されているかというと、現状では難しい面があります。成羽の化石は非常に有名ですが、美術館で美しく展示されているものの、化石に関する専門的な知識を持った人材が育っているとは言い難い状況です。文化に関する施策としては示されていますが、「目指す姿」としては少し弱い印象を受けます。

今後、高梁がどのように生き残り、発展していくのかという方向性を教育の中にも反映させていく必要があるのではないかでしょうか。例えば、農業や自然に関する教育に重点を置くことも高梁らしさを活かした非常に面白い取組になると思います。また、

「Society5.0」という言葉が登場した当初は新鮮に感じましたが、最近ではやや古さを感じるようになってきました。示されている未来の方向性は理解できますが、それを表現する新たな言葉や視点があってもよいのではないかと思いました。

- 多くの自治体でICT教育やICT機器を活用した教育が重視されていますが、その前段階として、単に機器が使えることにとどまらず、フェイクニュースへの対応など、情報を正しく見極めるリテラシー教育の方がより重要ではないかと考えています。また、グローバル人材の育成についても、英語教育を行えばグローバルになるという単純なものではなく、世界と渡り合える人間性を持った人材を育てることが本質であ

り、英語に特化しすぎることには慎重であるべきだと思っています。

地産地消が給食魅力化の中で取り上げられていましたが、食育の一環としても位置づけていただいた方が良いと考えます。加えて、勤労青少年ホームの活性化については、働く若者を含めた青少年の育成のために重要な施策であり、今後の活用の在り方についても工夫が求められると思います。最後に、多文化共生についてですが、外国人との交流だけが多文化共生ではなく、市内に暮らす外国人住民との共生という視点であれば、基本的に人権教育にあたるものであり、多文化共生という言葉自体も市民には分かりにくい面があるため、より分かりやすい言葉で表現していただければと思っています。

（2）その他

- ・意見の提出について
- ・次回開催については、改めて案内

4 閉会（副会長あいさつ）

教育に関するることは非常に多岐にわたるため、限られた言葉で表現すること自体が難しいことだと感じています。委員の皆さまは、それぞれの思いや立場をもってご意見をいただいており、そのような中で、きっと今後の良い方向性が示されていくのではないかと感じています。いずれにしても、高梁市として目指すべき今後の姿が、この議論の中から少しでも明らかになっていけばと願っているところです。本日は、誠にありがとうございました。